



株式会社ミツカングループ本社

生産・物流拠点の再編に伴い 物流管理の基幹システムを刷新 パッケージで全国の物流管理システムを統一

■要件

生産・物流拠点の再編に伴い、新しい物流体制にマッチした新物流管理システムを構築する。複数の物流センターにわたる広域在庫の統合管理、中継デポによるスルー型物流への対応などの仕組みを整える。

■ソリューション

実績のある物流管理パッケージをベースに追加開発を行うことで、新物流管理システムを効率的に構築し、全国の物流センターへ展開する。メインフレームの撤廃も視野に入れ、新物流管理システムのオープン化を推進する。

■成果

2008年度は東日本地区で新システムを稼働。広域在庫の統合管理、スルー型物流の実現により、物流コストを減らしながら、高いレベルの物流サービスを実現できた。2009年度は中部以西の拠点へ新システムを展開する。

複数拠点の在庫を統合管理する 新物流管理システムの導入を検討

「味ぼん」「おむすび山」などで知られる大手食品・調味料メーカーのミツカングループ。統括会社のミツカングループ本社を軸に、事業別・機能別の分社型カンパニー制度を採用することで、現場の迅速な意思決定を重視している。

同グループが、食酢などドライ食品の東日本における生産・物流体制の見直しを始めたのは2005年ごろである。建物・設備の老朽化と周辺の宅地化が進んだ東京工場・東京物流センター(埼玉県戸田市)を閉鎖し、栃木工場へ統合する生産戦略を受け、同グループの物流部門は最も効率的な物流体制を検討した。

ミツカングループは、1回の注文には1回の配送で全商品を届ける物流サービスを提供している。関東地区の三つの生産工場は、一部を除いて異なる商品を製造するため、東京物流センター閉鎖後も同じ物流サービスを続けるには、東京物流センターに代わる拠点が必要になった。

物流カンパニーであるミツカンロジテックの金子賢司氏は「新しい在庫保管拠点を作れば、今までと同じ物流サービスを実現できますが、大きな投資や社内転送が必要になります。そこで、新しい物流体制は物流投資を抑え、かつ付加価値を生まない間接物流コストを極限まで減らすことを目標に考えました」と語る。

検討の結果、同グループは関東地区の三つの工場に併設する物流センターを整備し、互いに重複在庫を持たせずに、配送途中の中継デポで取引先別に商品を積み直して配送するというスルー型物流を採用する。

新体制実現に向けた課題の一つは物流管理システムだった。

ミツカンロジテックの田島憲氏は「われわれが目指す物流体制では、各工場の物流センターに分散する広域在庫を、賞味日付別まで考慮して管理する必要があります。また、お客様の注文商品を1回で配送できるように、物流センターから中継デポへ輸送する商品を適切に指示しなければなりません」と語る。

従来の物流管理システムはメインフレーム上に構築しており、操作性や機能追加のしやすさの面でも不満があった。フォークリフトの車載システムを、各センターが個別に構築していたことも課題だった。

情報システムなどを担当する内務カンパニーであるミツカンロジテックの坂本昌俊氏は「戦略的にメインフレームの利用を減らしてオープンシステムへ移行するとともに、センター業務を標準化できる操作性の良いシステムを実現したいと考えていました」と振り返る。

導入実績が豊富なiWMSを採用 追加開発で高度な要件を実現

要件をもとに、取引のあったITベンダー3社に提案を募ったのは、2006年夏ごろである。その中からミツカングループは新日鉄ソリューションズを選ぶ。同社の提案は、フレームワーク社の物流管理パッケージである「Logistics Station iWMS」をベースに、必要な機能を追加開発し、全国の物流センターへの展開を容易にす



株式会社ミツカンロジテック
情報システム部
システム開発1課
課長
坂本 昌俊氏



株式会社ミツカンロジテック
企画課
課長
金子 賢司氏



株式会社ミツカンロジテック
ドライ物流統括部
関東ブロック長
加藤 文雄氏



株式会社ミツカンロジテック
情報システム部
システム開発1課
主任
太田 豊氏



株式会社ミツカンロジテック
管理企画課
田島 憲氏



株式会社ミツカンロジテック
関東第三物流センター
物流業務課
主任
山本 文隆氏

るというものだった。

ミツカンロジテックの太田豊氏は「当社独自の物流業務がパッケージになじむかが一番心配でしたが、iWMSは多くの機能を備えており、導入実績も豊富でした」と評価する。

新物流管理システムの開発は、2006年10月にスタートする。ミツカングループが求めた複数拠点にわたる在庫の広域管理機能は、同グループも初めて導入する仕組みなので、基本的な処理内容についても要件定義が必要になった。業務フローを綿密に分析し、約6カ月をかけたという。

当時、本社で要件定義に参加したミツカンロジテックの山本文隆氏は「新日鉄ソリューションズは、会議で課題が判明すると、こちらの意向や将来性を考えて、非常に早いタイミングで解決策を提案してくれました」と振り返る。

こうして、新ドライ物流システム「WINGS」は予定通り完成。2008年6月の関東第二物流センターへの導入を手始めに、同年7月までに関東以北

の5拠点で利用が始まった。同年10月にはスルー型物流も開始され、期待通りの成果を上げている。

利用部門の立場でプロジェクトに参加したミツカンロジテックの加藤文雄氏は「物流の基幹システムであるため、関東第二センターへの導入時に厳しくテストしましたが、新日鉄ソリューションズは判明した問題へ丁寧に対応してくれました」と語る。

日常業務の管理効率化も実現 今後は中部以西の拠点へ展開

新システムは、日常の管理業務の効率化にも役立っている。

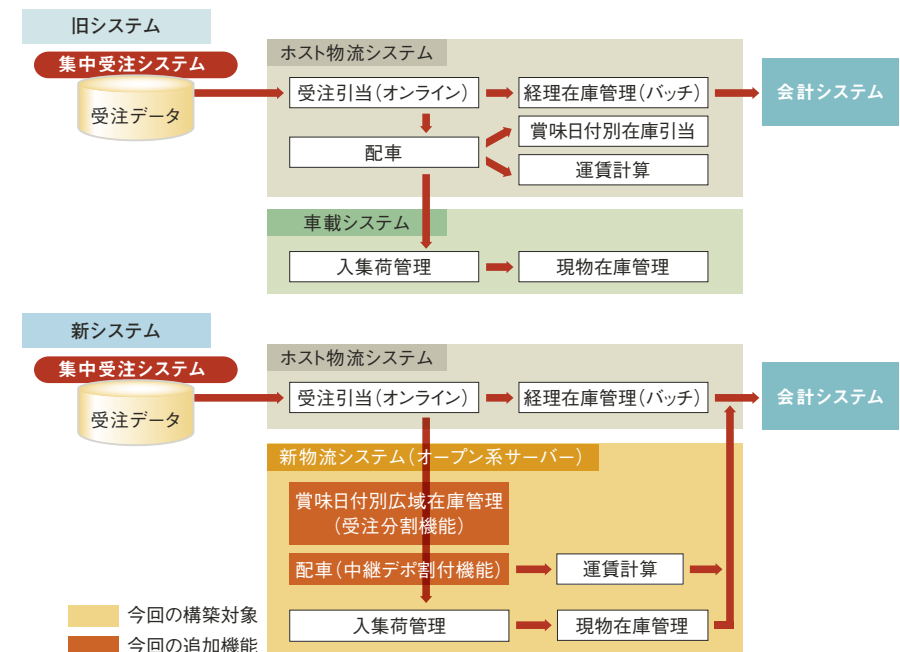
田島氏は「従来は情報システム部

へ依頼して取得していた業務データを、利用者側で抽出して分析できるようになりました」と評価する。

自動配車と呼ぶ中継デポ割付機能の評価も高い。中継デポでの積み替え作業を考慮しながら、なるべくパレット単位で商品をまとめてハンドリングできるよう、効率的な商品の積み込み方法を指示する。

ミツカングループは、新日鉄ソリューションズとはアプリケーション保守についても年間契約を結び、システムを定期的に見直している。業務に影響する場合は、即日対応を求めているが、期待通りの対応を実現しているという。

■ミツカングループが導入した新ドライ物流システム「WINGS」の概要



■コアテクノロジー
在庫・鮮度管理、作業実績・進捗把握、Logistics Station iWMS G5、Visual Basic .NET

■システム概要

- サーバー：6 (DBサーバー×2、車載システム×4)
- ミドルウェア：統合物流パッケージiWMS
- クライアント：100 (予定)
- 車載端末：100 (予定)

WINGS:Wide area INventory loGistics System